

# 災救通信

平成28年  
3月1日  
第8号

発行

天理教  
災害救援  
ひのきしん隊  
北海道教区隊

逐次発行



PHOTO - 169702

## 冬季平時 訓練実施

教区スタッフ

南空知支部隊 合同訓練

災救隊南空知支部隊（寺澤信彦隊長）では平成28年1月30日、31日の両日冬季平時訓練を実施した。30日、三笠市の幾春別分教会に集合し結隊式を行った後、分かれて市内の独居老人宅5軒の雪下ろしや除排雪の作業を行った。また、市内の福祉施設1棟の除排雪も実施した。いずれも三笠市社会福祉協議会からの要請をうけての作業で、こうした取り組みは長年続けられている。

また、翌31日には岩見沢市へと現場が移動するため宿営場所となった夕張大教会へ隊員が移動し疲れを癒した。31日も朝から好天に恵まれ、岩見沢市内にある教会の屋根の雪下ろしを行った。はじめて現場に同行した教区スタッフは雪の多さに驚いたが、例年の半分



好天に恵まれ作業もはかどる。南空知支部隊。

程度だという。なお、この度は教区スタッフの研修をかねて合同で訓練が行われ、教区からは奥村教区隊長はじめ6名が参加した。参加者数は、婦人会を含む79名（のべ）。

## 天龍支部隊

2月19日から20日にかけて天龍支部隊（田中直人隊長）でも冬季訓練が実施された。深川市の雨龍大教会に集合し、深川市社会福祉協議会より依頼された独居老人宅など6軒を、タイヤショベルやダンブカーなどを準備し除排雪作業や雪下ろし作業を行った。除雪先である94才になる老婦人から「本当にたすかります、有難い限りです」との感謝と喜びの声をいただき一同の大きな喜びとなった。参加者27名（のべ）。



感謝の言葉をいただき、笑顔の天龍支部隊員。

# 30回目となる 冬季訓練

## 空知支部隊

空知支部隊（坂本忠則隊長）は1月31日、美唄市にある沼貝分教会に集合し恒例の冬季平時訓練を実施した。作業係、資材・輸送係、庶務係等の職掌を分担し、美唄市社会福祉協議会より依頼された独居老人宅、3軒の屋根の雪下ろしや周辺の除排雪作業を3班に分かれて行った。

こうした取り組みは昭和60年より行っており、積雪量の少ない時を除いて



空知支部隊結隊式の様子。（沼貝分にて）

毎年実施され、今年が30回目の実施となった。現場となった一カ所では今回だけの作業に止まらず、今シーズン3回の作業を行い住人の方から大変感謝され、隊員に差し入れなども頂戴した。

今回の作業でも大型の投雪機や軽トラツクなどの機材や車輛も使用し63人が訓練に参加した。



## 災救隊本部

### 教区隊長会議

2月25日、災救隊本部に於いて教区隊長会議が行われ奥村教区隊長が出席した。長野本部長の挨拶に続いて立教179年の活動方針が発表され、『地域ひのきしんの充実と推進』が図れるよう活動を展開する事が述べられた。続いて板倉副本部長より昨年の活動報告並びに出動報告、更に今年の活動計画が発表された。

また、これに続いて場内ではこのたび災救隊本部で制作された「チェンソーの取り扱い方」のDVDが上映され、各

北海道教区管内でも行政との連携が進められている。



平成20年に出来た旭川市の防災センター。支部では行政との連携の相談を重ねている。

教区での訓練や研修に活用してもらうためにDVDが配布された。

更にまた、昨年9月に大きな被害を受けた関東・東北豪雨災害で天理教として中心的に救援活動を行った、茨城教区を代表して海老澤裕之主事から「災害時における地区・行政との連携」と題して感話があった。海老澤主事はつくば市と常総市の中間に自教会があり、支部長になった時に災救隊のパンフレットを持参し両市にあいさつに回ったという。

そうした矢先、四年前のつくば市での竜巻災害や先般の豪雨、鬼怒川氾濫による常総市での災害発生時には事前につながっていたことで、迅速な活動が展開できたという。

会議は事務局より諸連絡があり閉会した。

### 立教179年度 活動方針 『地域ひのきしんの充実と推進』

- ・ 活動の基盤となるちばへの伏せこみ
  - ・ 一手一つの活動を通して隊の充実を図る
  - ・ 訓練や実動を通して行政機関との連携を図る